

ACANTHUS NEWS



「アカンサス」(和名「ハアザミ」)は、南ヨーロッパ原産で葉を様式化した文様はギリシャ建築などで有名。金沢大学の校章も、このアカンサスの葉を図案化したもの。

平成13年 **2001.6**

月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第58号

TOPNEWS

名誉教授称号記授与式・懇談会



林学長から称号記を授与される新名誉教授
＝金沢市内のホテルで

新名誉教授を代表してあいさつする小牧純爾名誉教授
＝金沢市内のホテルで

5月31日、名誉教授称号記授与式が開催され、本年度から新名誉教授となった15名(称号記授与式参加者は11名)に林学長から称号記が授与された。引き続き、名誉教授懇談会が行われ65名の名誉教授が出席した。

(関連事項は7頁に掲載)



御手洗康文部科学審議官、本学を視察

5月2日、御手洗康文部科学審議官が本学を視察した。学長室で林学長、水上事務局長から、本学の概要、大学改革状況及び角間総合移転事業並びに病院再開発事業等について説明を受けた後、総合教育棟、附属図書館、総合移転第Ⅱ期移転用地等を視察した。



総合移転第Ⅱ期移転用地の説明をする水上事務局長(右端)と説明を受ける御手洗文部科学審議官(左から3人目)
＝理学部棟屋上で

巻頭言

真価が問われる金沢大学の産官学連携！



共同研究センター長
廣瀬 幸雄
(理学部教授)

昭和62年度から設置され始めた共同研究センターは類似のセンターを含めて全国で65になり、39番目に整備された当センターは早いスタートとは云えないものの設置後既に7年目を迎えました。

さて本学の産学連携は全国ではどのような状況なのでしょうか？

単純に産学連携活動を数値化できませんが、企業との共同研究件数で見れば、平成12年度における本学の78件は全国14位であり、一昨年の28位から大幅な躍進です。本学と同じグループに属する旧6大学といわれる千葉大学74件（センター設置平成6年度）、新潟大学57件（平成3年度）、岡山大学47件（平成2年度）、長崎大学34件（平成2年度）、熊本大学57件（昭和62年度）の中でもトップとなりました。さらに、件数を対前年度伸び率で見ると約2.0倍となった本学は全国3位ですが、上位の2大学は件数がヒトケタですので、実質的に全国1位だと云っても過言ではないでしょう。

全国平均伸び率が約1.25倍ですから、昨年度いかに多くの

教官にご努力いただいたかということになりますが、国立大学の独立行政法人化問題や国の財政改革の動向を見ても大学独自の財政基盤強化策や地域貢献策を早急に打ち出さねばなりません。昨年の実績に甘んずることなく今後とも努力を継続することが必然であり、そこにいきる我々教官が、大学の知的資源の積極的な活用と人・モノ・情報といった地域資源の見直し・発掘を継続して行き成果をきちんと出してゆくことが何よりも大切なことと思います。

当センターでは産学連携強化のためにセンター事業を支援する協力を早急に設立するため企業に入会を精力的に呼びかけていますが、発起人会後一月足らずで目標の50社に達し、これは金沢大学への大きな期待と真摯に受けとめたいと思います。

また、大学のシーズと企業のニーズを橋渡しするコーディネート業務強化のために、学内外で産学コーディネーターとチームを組んで活動し、各教官の持つ専門性や研究手法によって真の（新の）共同研究の種を見出し、社会との交流からニーズをくみとってゆく、その意識によって益ある産学連携を行いさらには技術移転を進めたいと考えています。

金沢大学の産官学連携の真価が問われるのは正にこれからで、センターはより成果をあげられるアイデアと工夫を走りながら考えます。

皆様の更なるご理解とご支援を賜るようお願いします。

「共同研究センター協力会」の 発起人会開く

5月9日、事務局大会議室で、本学関係者と県内産業界・財界関係者が出席し、「共同研究センター協力会」の発起人会が開催された。

同協力会は、「金沢大学と地域の産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流を一層深めていく」ことを目的とし、7月設立を目標に企業等の入会募集を行う。



あいさつする林学長
＝事務局大会議室で

5月のビッグニュース

第42回国立六大学長会議 —国立大学の課題を協議—

5月29日から2日間の日程で、本学が当番となって第42回国立六大学長会議が事務局大会議室で開催され、本学、千葉大学、新潟大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学から、学長と事務局長等が出席した。

会議では、「大学院の部局化等の課題」及び「国立大学の独立行政法人化」について協議された。協議終了後、次回会議の当番校である熊本大学に引継ぎを行い、会議が閉会された。



あいさつする林学長
＝事務局大会議室で



目次

名誉教授称号記授与式・懇談会	1	「第1回北陸地域アイソトープ研究フォーラム	
御手洗康文部科学審議官、本学を視察	1	－科学の進歩と安全－	9
真価が問われる金沢大学の産官学連携！	2	シンポジウム「医療分野のマルチメディア応用と	
「共同研究センター協力会」の発起人会開く	2	ネットワーク活用	9
第42回国立六大学長会議		医学部医学科救命救急医療を学ぶ	9
－国立大学の課題を協議－	3	健寿会定期総会 学長・事務局長が出席	10
附属養護学校校舎改修・体育館新築	4	北陸地区国立学校等初任者研修会	10
故本陣元学長の夫人から1千万円寄附	5	訃報	11
「ふれあい看護体験」	5	文化人類学特別セミナー	
学生定期健康診断	5	「シエルパー・ヒマラヤ高地民族の20世紀－」	11
地域への窓口、教育学部附属教育実践総合センター	6	「特別講演会講義録」など発行	11
平成13年度新名誉教授紹介	7	編集後記	11
留学生、日本文化を体験	7	大学教育開放センター公開講座はじまる	12
日本教育大学協会北陸地区会評議員会を開催	8	タケノコ掘り、竹林整備を実施	12
教養教育機構公開講演会はじまる	8	キャンパス点描	12

5月のニュースの杜

附属養護学校校舎改修・体育館新築

5月22日、附属養護学校校舎改修及び体育館新築の完成記念式典が挙行政され、学内外の関係者約160名が出席した。

記念式典では、杉本教育学部長の式辞に続き、林学長及び鎌中育英会会長が祝辞を述べ、前田施設部長から施設概要の報告があった。

また、児童及び生徒からは、お礼として、喜びの言葉とくす玉割りで感謝の気持ちが伝えられた。記念式典後、施設見学と、祝賀会も開催された。



喜びのくす玉を割る附属養護学校の児童・生徒
=5月22日、附属養護学校体育館で

祝辞を述べる林学長
=5月22日、附属養護学校体育館で



新築された体育館



改修された校舎

5月のニュースの杜

故本陣元学長の夫人から
1千万円寄附

5月2日、本学第6代学長の故本陣良平名誉教授の久子夫人から、医学系研究科に対し、1千万円の寄附が行われた。

同名誉教授の生前の遺志により、基礎医学の研究を志す大学院医学系研究科の大学院生や若手教官の教育研究奨励のために寄附されたもので、医学系研究科では、早速「本陣基金運用委員会」を発足させ、故本陣名誉教授の遺志に沿って運用していくこととした。



馬淵医学系研究科長に寄附目録を手渡す、本陣久子さん
=5月2日、医学部長室で



=5月12日、医学部附属病院で

「ふれあい看護体験」

ナイチンゲールの誕生日（5月12日）が、日本では1990年に「看護の日」として定められ、毎年この日を中心とした1週間は「看護週間」として全国で記念事業が行われている。

医学部附属病院では、5月8日に高校生3名が参加し、「ふれあい看護体験」が、5月12日に親子1組が参加し、「ふれあい看護体験・親子で参加」が実施された。

それぞれの参加者は、「一日看護婦を命ずる」の辞令を病院長から交付され、担当フロア婦長とともに、病棟で患者さんとのふれあいと看護業務を体験した。

学生定期健康診断

本年度の定期健康診断が各キャンパスで、4月19日から5月21日にかけて実施され、多くの学生が受診した。



=角間キャンパスで



=小立野キャンパスで

地域への窓口, 教育学部附属教育実践総合センター

教育学部附属教育実践総合センターは, 教育学部における学校教員養成と, 実際の現場をつなぐ機関として設置され活躍しています。

授業に関わる課題に関する研究・指導
教育課題相談室

学校は, これからのカリキュラムをどうつくるか, 学力低下問題をどうとらえどう対処するか, 教員の資質をどう高めるかなど, 緊急を要する課題をかかえています。

そういった課題について, 学校の教師たちと一緒に考えています。そのため, 【教育課題相談室】を設け, 随時現場から様々な相談を受けると同時に, 研究協力校とともに継続的な研究会を開いています。

子どものころに関わる研究・指導
心の問題相談室

学校がかかえるもう一つの問題は, 子どもの心の問題です。増大し続ける不登校児の数や学級崩壊, いじめなど, メディアでもさかんに報道されています。こういった問題に専門的な立場からアプローチできるスタッフを育てることは, 教員養成においても現場教員の研修においても急務になっています。

そのため, 教育実践総合センターでは【こころの問題相談室】を設け, スクールカウンセラーの派遣, 臨床相談, 教員や学生とのセミナーの開催などの活動を行っています。



現場で一緒にカリキュラム開発を行う

教育メディアの開発・利用研究
産学連携研究開発

学校もIT化で大きく変わろうとしています。ところが, こういった授業を支えるメディアは, 必ずしも完成されたものではありません。もっと使いやすく, もっとインパクトのあるメディアが必要です。

教育機器メーカーや放送局などと共同で新しい教育メディアのあり方を追求し, その中で学校放送番組『調べてまとめて伝えよう』『インターネットスクールたったひとつの地球』なども生まれてきました。教室用プロジェクタや, 学校の情報管理を促進するソフトウェアの開発も進んでいます。

遠隔学習に関する研究
遠隔学習システム

今, 教育全体がかかえる大きな課題の一つに, 学校に行けない子どもたちの学習をどう保障するかということがあります。長期入院や不登校などの原因で, 学校に通えない子どもたちも, 学習する権利を有します。それをどういった形で実現するかということには, さまざまなアプローチがありますが, その中の一つに, ネットワークを利用した学習環境があります。

教育実践総合センターでは, 【遠隔学習システム】をたちあげるための基礎研究を, 石川県教育委員会等と協力して進めています。子どもたちが, ネットワークを使ってコミュニケーションをとりながらさまざまな人とかわり, その中で学習を進め, したいに社会との関係を深めていくことはできないでしょうか。そのためには, どういったシステムがあればいいのか, どのように運営されなければならないのかといったことを, 実践を通して考えています。



遠隔学習システムの実験を行うスタッフ

トピックス

平成13年度新名誉教授紹介



式典に欠席の新名誉教授は、高橋守信 (がん研究所) (平成13年2月1日付)、藤澤法暎 (教育学部)、山下浩 (教育学部)、林田和也 (理学部) の4氏

留学生，日本文化を体験

書道・茶道教室

課外活動として、留学生対象の書道、茶道の教室が角間ゲストハウスで開かれており、5月15日、それぞれの教室に7名が参加した。

茶道教室では、細かい作法に四苦八苦しながらも、茶道の心を学ぼうとする姿があり、書道教室では、漢字に親しむ留学生の姿が見られた。



左書道教室，上茶道教室
=5月15日，角間ゲストハウスで

お旅まつり「曳山」

5月13日、日本の伝統文化見学と異文化の体験を目的に、留学生約25名が那谷寺の見学、及びお旅まつり (小松市) の「曳山」を体験した。



「曳山」を体験する留学生
=5月13日，小松市内で

トピックス

日本教育大学協会北陸地区会
評議員会を開催

平成13年度日本教育大学協会北陸地区会評議員会が、5月17日に教育学部会議室において開催された。教員養成系学部の将来計画、附属学校の諸問題等について議論がなされ、現在の教員養成系学部の厳しい現状を反映してか、各大学から多数意見が出された。



あいさつする杉本幹博教育学部長
=5月17日、教育学部会議室で

教養教育機構公開講演会が始まる



講演する古章子選手
=5月14日、総合教育棟で

第1回講演会－古章子選手

5月14日、本年度第1回目となる教養教育機構の公開講演会が開かれ、シドニーオリンピックトランポリン競技で6位入賞した本学出身の古章子選手を招き、「努力すれば夢はかなう」をテーマに一時間半にわたり講演が行われた。

古選手は、シドニー五輪での競技記録のビデオ放映を行った後、トランポリンを始めた動機、オリンピック選手に決まったときの感想を述べ、「スポーツに限らず、何事にも強い意志と自覚を持って、努力すれば夢がかなう」等努力の大切さを強調した。

第2回講演会－吉川恭生氏

5月17日、第2回目の公開講演会が開かれた。講師に、美術家で国境なき医師団の一員でもある吉川^{やすお}恭生氏を招き、「アフリカその光と影－死線を越えてヒューマニズムにかける－」と題した講演を、約50名が聴講した。

吉川氏は、国境なき医師団としての活動をスライドで紹介し、ヒューマニズム論と現実の活動内容の矛盾等について説明し、受講者からの質問に対しても、分かりやすく丁寧に応じていた。



講演する吉川恭生氏
=5月17日、総合教育棟で



トピックス

「第1回北陸地域アイソトープ研究フォーラム - 科学の進歩と安全 -」

5月10日、医学部十全講堂で「第1回北陸地域アイソトープ研究フォーラム - 科学の進歩と安全 -」が開催され、415名が参加した。

このフォーラムは、科学技術・研究開発の推進と安全の両面について幅広い視点から理解を深めてもらい、北陸地域における科学技術・学術研究の円滑かつ安全な推進及び産業の振興に資することを目的に開催されたもので、木下冨雄甲子園大学長が「先端科学技術の進歩と社会的合意」と題して講演した。



あいさつする花岡副学長
=5月10日、医学部十全講堂で



講演する鈴木正行医学部教授
=5月30日、金沢市内のホテルで

シンポジウム「医療分野のマルチメディア応用と ネットワーク活用」

5月30日、金沢市内のホテルで、本学が主催となり、シンポジウム「医療分野のマルチメディア応用とネットワーク活用」が開催され、約90名が参加した。このシンポジウムは、医療分野における情報ネットワーク活用の今後の可能性を探る手がかりとなるよう実施されたもの。

シンポジウムに先立ち、河崎一夫医学部附属病院長が主催者としてあいさつを行い、続いて鈴木正行医学系研究科教授、分校久志医学部附属病院医療情報部長、吉村仁コニカ(株)メディカル&グラフィックカンパニーM I システムG課長がそれぞれ講師となって講演が行われた。

医学部医学科 救命救急医療を学ぶ

5月8日、医学部新入生約100名に対し、救命救急医療の重要性を学ぶため、金沢市消防本部の救急隊員に依頼して初めての講習会が開かれた。この講習は「医学入門」の1コマである救命救急講習の授業で、医師を志す学生に、救急現場での手当の重要性をできるだけ早く学んでもらうために行われたもので、心肺蘇生や止血法について受講した。



心肺蘇生を体験する受講者
=5月8日、小立野体育館で

トピックス

健寿会定期総会 学長・事務局長が出席

5月23日、健寿会定期総会及び懇親会が金沢市内のホテルで開催され、会員72名が出席した。

総会では会長として林学長が、懇親会では副会長として水上事務局長がそれぞれあいさつした。参加者は、久々の再会を喜び、そして昔の話に花を咲かせていた。



総会



懇親会 写真左から 尾崎元施設部補佐、高島元徳島大学経理部長、河合元工学部事務長、津川元長岡高専事務部長、市村元医学部事務長（健寿会副会長）、久保総務部長、泉元富山大事務局長、林学長、近岡元工学部工作センター技術係長、加藤総務部総務課長、水上事務局長。



本学関係者と健寿会会員72名が会しての記念撮影



受講者にあいさつする水上事務局長
=5月21日、事務局大会議室で

北陸地区国立学校等初任者研修会

5月21日から24日までの4日間、北陸地区の国立大学、短大、高専等の初任者研修（8機関から40名）が、本学の当番で辰口共同研修センターを会場に実施された。

開講式では、水上事務局長が公務員としての心構えをしっかり身に付け、多くの仲間と親睦を深めるよう、受講者にあいさつした。



ふ 計 報

6月1日、金子曾政元学長（名誉教授）が御逝去されました。享年85歳。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

サテライト・プラザ

文化人類学特別セミナー 「シェルパ-ヒマラヤ高地民族の20世紀-」

5月24日、新「サテライト・プラザ」で移転後初めてのセミナー、「シェルパ-ヒマラヤ高地民族の20世紀-」が文化人類学講座と市民団体の石川県ネパール協会との共催で行われ、10名が参加した。



セミナーを行う鹿野勝彦文学部教授
=5月24日、新「サテライト・プラザ」で

「特別講演会講演録」など発行

次の冊子が発行された。

- ・金沢大学サテライト・プラザ『ミニ講演』講演録集
 - ・第2回金沢大学運営諮問会議（諮問事項，答申及び議事概要）
 - ・平成12年度第3回金沢大学フォーラム特別講演会講演録
- ご希望の方に、総務部企画広報室広報係で配布している。

問い合わせ先

TEL (076)-264-5022

FAX (076) 234-4015

E-mail : h.matsu@ad.kanzawa-u.ac.jp



編 集 後 記

6月1日未明、第5代学長の金子曾政先生がお亡くなりになられた。

金子先生は、昭和55（1980）年11月の評議会で、角間への移転を決定した時の学長である。移転については、深夜にわたる評議会が何度も行われていた。この前後のことは、先生の随筆集でたくさん書かれている。

先生は、毎朝、杜の里の道路のごみや空き缶を、長年の間拾って歩かれた話は有名である。杜の里は、金沢大学に通じる大通りである。

先生は、角間の四季をカメラに収められた。その写真

を御自分のポストカードにされた。私はそのほとんどをいただいた。

林学長が出張中に事務局にお見えになって、「学長がいないのに、入っていいかな」と学長室から、第Ⅱ期工事の写真を撮っていかれた。私が大学で先生とお会いした最後となった。昨年の夏のことである。

本号にたくさんの記事がある中、金子先生のことについてのみ書くことをお許しいただきたい。

先生の御冥福をお祈り申し上げます。 合掌

（総務部企画広報室長 寺井 嘉治）

大学教育開放センター公開講座はじまる

「市民のための哲学入門」

本講座は、岡崎文明教育学部教授を講師に大学教育開放センター講義室で、5月8日から6月5日までの5回にわたり開催されたもので、約20名の参加者を数えた。

哲学の考え方をその誕生から今日に至る視野において紹介することを講座の趣旨に、多くの参加者が哲学についての造詣を深めた。



講義する岡崎教育学部教授
=5月15日、大学教育開放センターで

「有機合成化学実験を体験してみよう」

5月12日から6月2日まで、薬学部薬化学研究室を会場に、公開講座「有機合成化学実験を体験してみよう」が開催され、5名の受講者が、最先端化学の一部に触れる実験を体験した。



講義する染井正徳薬学部教授
=5月12日、薬学部薬化学研究室で

タケノコ掘り，
竹林整備を実施

「角間の里山自然学校」は、5月12日、里山メイトを中心に33名が参加し、タケノコ掘りと竹林整備を行った。参加者からは、「とても天気がよく、竹林を歩き、里山の自然に触れる一日を過ごすことができ、とても楽しかった。タケノコは不作だが…」という感想が聞かれた。

なお、林学長夫妻も参加した。



竹林整備に参加する林学長（右端）
=5月12日、角間の里山で

キャンパス点描

「思無邪」

第2代学長石橋雅義先生の書。
現在は、泉学寮の食堂に掛かっている。



アカンサスニュース2001年5月号（第57号）7頁で「医学博士」とあるのは「博士（医学）」と訂正します。
なお、当分の間、式等で「医学博士」「工学博士」などと口頭で表現された場合、そのまま記載することもありますので、ご了承ください。

平成13年 6月22日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5022
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピース）〉
（アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）=general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。